

# 工大広報

No.259  
Autumn 2010  
2010年11月26日発行  
(年4回発行)



第35回

## 工大祭「Sparkling!!」

産学官連携活動 着々と

表紙写真:大学祭のチアダンスイベント



TOHOKU INSTITUTE  
OF TECHNOLOGY

創造から統合へ 仙台からの発進  
**東北工業大学**

# 第35回 工大祭「Sparkling!!」

日時:2010.10.16(土)・17(日)10:00~15:00 会場:八木山・長町キャンパス

今年の工大祭のテーマである「Sparkling!!」は、弾ける!!という意味と、活性化という二つの意味を併せもっています。これは、工大祭に来場した方にとにかく楽しんでいただき、工大祭を中心に八木山周辺の活性化を図っていきたい、という思いがこめられた、テーマにちなんだ企画や装飾などを数多く揃えた工大祭になりました。

35th 東北工業大学 大学祭  
工大祭  
Sparkling!!

10/16(土)・17(日)  
オープンキャンパス同日開催!!

10/16(土)・17(日)  
工大落語寄席  
10/17(日)  
13:00 ~ 14:00  
どちらも入場無料  
林家久蔵師匠

10/16(土)・10/17(日)  
大bingo大会 ○×クイズ

10/17(日)  
16:00 ~ 17:00  
工大お笑いLive  
TKO ムートン

所在地 仙台市太白区八木山街沿町35番1号  
お問い合わせ先 022-305-3723  
メールアドレス [pakusu\\_35@yahoo.co.jp](mailto:pakusu_35@yahoo.co.jp)

ポスターデザイン:志賀敬太(パンフレット長 クリエイティブデザイン学科 3年)

## 工大祭を振り返って



かさい しげのぶ  
**葛西 重信**

学生部次長  
共通教育センター 教授



おばら じゅん  
**小原 純**  
大学祭実行委員長  
クリエイティブデザイン学科 3年

第35回工大祭が10月16日(土)、17日(日)に行なわれました。今年度は、八木山キャンパスにおける学科企画、学科屋台、北海道工業大学の屋台のほか、長町キャンパス屋台村、綱引き大会、泰日工業大学のステージ参加も加わり、盛り上がる工大祭となりました。規模が大きくなるにつれて活気がでてきましたが、実行委員は、代表学生との連携の難しさやスケジュールどおりに進まずに苦労した点も多々あり成長したと思います。来年はこのような点を踏まえてさらなる楽しい企画に取り組んでほしいと思います。

第35回工大祭「Sparkling!!」は、皆様のおかげで無事すべての日程を終えることができました。今年の工大祭は、屋台・展示企画やステージ企画を始め、様々なイベントを用意させていただきました。テーマの通り、ご来場者の方々には弾けるような気持ちで楽しんでいただけたのではないかと思います。今年が最後の年となる私たちにとっても、最高の思い出となりました。工大祭にご協力いただいた方々に実行委員一同、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

## 幼稚園企画

むらた しおり  
**村田 汐理**

幼稚園企画長  
安全安心生活デザイン学科 3年



例年より参加幼稚園も増え、「子ども祭り」というテーマに沿った企画物を通して、多くの子ども達に楽しんでもらうことができました。成功できたのも協力していただいた皆様のおかげです。大切な思い出となりました。

## ステージ企画

なかやま ともひろ  
**中山 優大**

ステージ企画長  
建築学科 3年



今年の大学祭のテーマ「Sparkling!!」に合わせ、ステージ企画では来場して下さったお客様と一緒に楽しんでいただけるような企画を意識して作りました。各メイン企画でも昨年以上の盛り上がりを見せ、大成功に終えることができました。

## 後夜祭企画

ちば ゆうた  
**千葉 雄太**

副委員長  
建築学科 3年



今年の後夜祭は、大盛況だったゲストライブの流れで、多くのお客様が来場してくださいました。たくさんの不安もありましたが、2つの企画を行い、特に今年のテーマ「Sparkling!!」に沿ったメイン企画では会場が一体となり、参加していただいたお客様に楽しんでもらえたと思います。

## スポーツ大会を終えて

さいとう こういちろう  
**齊藤 宏一郎**

スポーツ企画長  
環境情報工学科 3年



スポーツ大会は10月15日(金)八木山キャンパスと長町キャンパスで、ドッジボール、バレーボール、バスケットボール、ミニサッカーの4種目に428名が参加しました。今年はあいにくの雨でソフトボールがドッジボールに変更ということになりましたが、どの競技も熱戦を繰り広げていました。スポーツ大会を終えて真っ先に感じたことは、怪我などもなく無事終わったという安堵感でした。このようにスポーツ大会を無事に終えることができたのは、実行委員皆さんの手助けはもちろん、学生課を中心に大学職員皆さんのご支援のお蔭であることを、今強く感じています。来年もたくさんの学生の参加を期待しています。

## 学科企画

こむろ ゆうすけ  
**小室 裕亮**

屋台・展示企画長  
知能エレクトロニクス学科 3年



今年も、工大祭とオープンキャンパスが同時開催されました。各学科に協力していただき、学科屋台を実施したことで高校生の方などに楽しんでいただき、例年以上に工大祭が盛り上りました。

## 野外特別企画

たかけし まさる  
**高橋 克**

野外特別企画長  
知能エレクトロニクス学科 3年



フリーマーケットは、衣類や雑貨の販売を中心に占いや似顔絵の出店など、大変好評で行列ができるブースも見受けられました。林家久藏師匠の落語寄席は今年も好評で、幅広い年代の方に楽しんでもらうことが出来ました。

## コンサート企画

おの かずゆき  
**小野 一之**

コンサート企画長  
情報通信工学科 3年



今年のゲストライブは、昨年ほどの集客は得られなかったのですが、沢山のお客様に楽しんでいただくことができました。ご来場くださった方々、本当にありがとうございました。来年もお気軽にお越しください。



## 知能エレクトロニクス学科



**学科屋台** インドからの留学生、サジヤ・マニーシュ・カルティク君が作る本格インドカレーを販売しました。サジヤ君は、週に1度カレーを作っていることもあり、その味は抜群で16日、17日の両日、前日仕込んだカレーも売り切れてしまうほどでした。

**学科企画** 3号館では全研究室を公開、各研究室の学部学生と大学院学生が現在取り組んでいる先端技術を紹介しました。また、組み込みシステム開発センターでは小・中学生を対象にロボットの製作を行ないました。

## 建築学科



**学科屋台** 「本格手作りワンタン」との看板で出店しました。初日はつけワンタンを100食、翌日は鶏ガラのスープワンタンを125食完売しました。手作り、美味が人気の秘密ですが、来年も参加できればと思います。

**学科企画** 2日間のcolorsワークショップ2010では、「Re:birth—きみが街のメジルシをつくる!」とのテーマで、建築家と共にディスカッションしながら、仙台の新たなメジルシを提案しました。参加者総勢50名、講師9名の方々が集まり、大変充実した内容でした。

## 環境情報工学科



**学科屋台** 宮城県の原風景である北上川のヨシ原の保全について考える良い機会となってほしいとの思いから、ヨシを腐葉土にして栽培した新米の試食および販売等を行ないました。

**学科企画** 「地震防災・減災あれこれ—X年宮城県沖地震への備え」と題して、神山真研究室の研究内容を紹介するとともに、地震によって生じる液状化などの様々な現象を実験装置や模型で再現した展示や、非常食の試食販売などを行いました。

## 安全安心生活デザイン学科



**学科屋台** 学科企画と共に通企画としてキーマカレーを販売しました。水を全く使わずトマトジュースで煮込み、野菜も津山からの直送品を使用するなどこだわりの品は大変好評で、完売しました。

**学科企画** 長町キャンパスでは、キーマカレーに加えて、秋保、津山、栗原から直送された農産物などの食品や工芸品を販売し、本学科の目標の一つである地域の活性化をアピールしました。

## 情報通信工学科



**学科屋台** スタンダードなソース味の他に、塩味のやきそばも用意しました。塩味が特に好評でした。

**学科企画** マルコーニが世界で初めて電波による通信の実験を行なったときに使った電波検出器(コヒーラ検波器)を作りました。アルミホイルなど、身近な材料で作れます。

## 建設システム工学科



**学科屋台** 長町キャンパス緑地内の竹材を加工した燭台や水筒、測量関係の器具を展示販売し、売上金を栗原市の方々に寄付しました。

**学科企画** 「くらしの色彩設計とまちなみの風景づくり」として色彩環境計画室の葛西紀巳子代表の「まちに色付けをすると子供も大人も仲良くやさしくなります」という講演や、「緑の学校の取り組み」のパネルを紹介しました。

## クリエイティブデザイン学科



**学科屋台** 「食べ物」をテーマに学生がデザインしたTシャツと、髪飾りを販売。大好評で完売しました。

**学科企画** 「真剣工大しゃべり場2010」を開催。工大OBのデザイナーと学生が「デザイナーが描く未来とは?」をテーマに、熱いトークを交わしました。「長町キャンパス屋台村2010」では芋煮、餃子、あんまんを多くの方に味わっていただきました。

## 経営コミュニケーション学科



**学科屋台** やきそば・唐揚げ・フライドポテト屋台を出店しました。運営に携わった学生は、絶え間ない注文に嬉しい悲鳴をあげながら、調理に励んでいました。

**学科企画** TOEICコンテスト・アネコレ女装大会を開催し、長町キャンパス屋台村に、やきそば・唐揚げ・フライドポテト屋台、カフェを出店しました。在学生やオープンキャンパスの高校生で長町キャンパスは予想以上の賑わいでした。

## 泰日工業大学ステージ企画

ほりえ ゆう  
**堀江 優**

ステージ企画  
建築学科 3年

今年は工大祭で初の企画として、ジョイントセミナーで来学中の泰日工業大学の皆さんに、タイの伝統的な踊りを披露してもらいました。見に来て下さったお客様、大学の関係者全ての人たちにタイの文化、歴史が伝わり、とても良いイベントになったと思います。



## キャンパスライフをプチ体験



10月16日、17日の両日に開催された今年3回目のオープンキャンパスに、323人もの高校生に参加いただきました。入試シーズン直前であり、高校生たちの学科訪問や受験相談は真剣そのものでしたが、大学祭と同時開催でしたので、大学生のエネルギーを感じたり屋台のエスニックな料理を楽しんだりと、八木山・長町の両キャンパスを堪能する様子も垣間見られたように思います。

今年のオープンキャンパスも好評のうちに終了しました。高校生の参加が年々着実に増加し喜ばしい限りです。来春のフレッシュな新入生を晴れやかに迎えるべく、私達も学習と研究に励みましょう。



## 後援会各支部の大学見学会

10月16日(土)・17日(日)第35回工大祭に合わせて後援会各支部から八木山キャンパスの大学見学会が行なわれ、初日は岩手・秋田・福島県支部から、2日目は青森・山形県支部から、総勢126名のご父母や支部役員の方々が訪れました。各学科紹介コーナー・工大落語寄席・野外企画・館内企画などの見学を行ないました。

また、支部によっては長町キャンパスや一番町ロビーを見学されていました。



岩崎理事長の記念展示を見学する後援会の皆さん

# 第25回 東北工業大学・北海道工業大学 総合定期戦報告

## 定期戦の成績について

たかはし としひこ  
**高橋 敏彦**  
学生部次長  
建設システム工学科 教授



8月24日(火)、25日(水)の2日間にわたり、第25回対北海道工業大学との総合定期戦が、八木山・長町両キャンパスと青葉山グランドを会場に行なわれました。北海道工業大学からは、教職員約30名、学生約250名が、飛行機4便に分乗して来仙しました。本学からは、学生・教職員・指導者の約350名が参加しました。両日とも今年の夏を象徴する猛暑日でしたが、長町グランドでの開会式から始まり13種目で熱戦が展開されました。両校とも、各競技場からの報告に一喜一憂しておりました。結果は、8勝した北海道工業大学が優勝しました。来年も東北工業大学会場で開催予定ですが、各クラブの頑張りを期待したいと思います。

### 対戦成績

種目	東北工業大学 対 北海道工業大学		
サッカー	●	3 — 5 ○	
ラグビーフットボール	●	0 — 25 ○	
ソフトテニス	○	4 — 1 ●	
硬式テニス	●	1 — 4 ○	
バスケットボール	●	84 — 103 ○	
剣道	○	2 (3引分) 2 ●	代表戦で東北工大勝利
柔道	○	3 (2引分) 2 ●	
アメリカンフットボール	●	— ○	北海道工大の不戦勝
バレーボール	○	3 — 1 ●	
ハンドボール	○	24 — 23 ●	
弓道	●	64 — 95 ○	
バドミントン	●	0 — 5 ○	
卓球	●	0 — 5 ○	
総合成績	5勝 — 8勝		



## 総合定期戦を終えて

ささげ ゆうき  
**挾 佑生**



実行委員長(学友会課外活動連合委員会事務局長)  
知能エレクトロニクス学科 3年

今年の総合定期戦では、みなさんの白熱した試合を見ることができました。総合優勝はできませんでしたが、選手の方々は今回の試合で得られたことが多くあったと思います。来年こそ総合優勝を目指して頑張ってください。

今後も定期戦が末永く続くことと、両校の絆が深まることを願っています。

こいわ なおし  
**小岩 尚志**



学友会学部学生会  
安全安心生活デザイン学科 3年

第25回総合定期戦が24日、25日の2日間にわたりて宮城の地で行なわれました。晴天にも恵まれ、白熱した試合が行なわれました。どの選手も全力でプレーし、勝ち負けに関わらず素晴らしい試合になりました。定期戦を通じ選手の絆が深まったのではないかでしょうか。今回の定期戦を無事に開催する事ができたのも運営委員並びに実行委員の皆様のご協力があったからだと思います。今後も両大学の親睦が深まることを願っています。

## 硬式野球部 第36回 千葉工業大学定期戦振り返って



かとう まさし  
**加藤 将司**

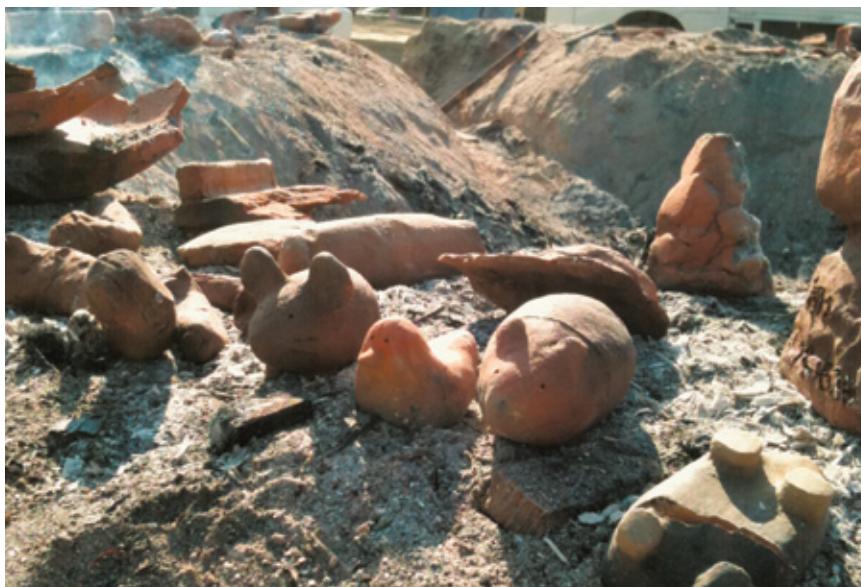


硬式野球部マネージャー  
建築学科 4年

8月16日(月)千葉工業大学野球場を会場に、第36回 千葉工業大学定期戦が行なわれました。試合は初回に、本学が2本のヒットとフォアボールで1点を先制し、続く2回にも長打と単打を絡め2点を追加しました。その後も5回・6回に追加点をあげ、計6点をあげましたが、終盤に投手の疲れからか連打をあび、徐々に点差を縮められました。6対5で迎えた最終回、千葉工業大学の猛攻にあい5連打で2点を奪われ、終わってみれば、6対7のサヨナラで敗れてしまいました。

試合後には懇親会が開かれ、両大学の親睦を深めました。この他にも秋季リーグ戦までの課題を見つけられるなど、とても充実した遠征になりました。

## 学生の自主活動⑬



窯出し直後の作品

### 縄文の炎 藤沢野焼祭2010

8月7日(土)、8日(日)に岩手県藤沢町で行なわれた、「縄文の炎藤沢野焼祭2010」に参加しました。陶芸用の粘土で作った作品を、野焼きで焼く体験ができるお祭りです。今年で35回目を迎え、毎年1000点以上の作品が集まるそうです。

広場の中心には祭りのシンボルである、巨大なキャンプファイヤーがあり、それを囲むように14基の窯が並んでいました。窯の中には、参加者の個性溢れる作品が並べられており、藁灰がかぶせられていきました。これは、藁を燃やしたもので、焚き始めの急激な温度上昇によるひび割れを防ぐクッションの役割を果たします。夕方になると、一斉に火入れが始まり、次の日の朝までじっくり火を焚き続けます。

夜になり、窯から立ち上がる炎は、今までに見たことのない情熱的な空間を作り出していました。特設ステージでは、楽器の演奏や歌が披露され、お祭りの締めくくりには、会場が一体となってよさこいを踊り、大盛り上がりでした。

朝になり、一斉に作品の窯出しが行なわれ、仕上がりに期待を抱きながら、自分の作品を探しました。割れているものが多く、あらためて焼き物の難しさを痛感しました。



野焼祭夜景



参加学生

## 奨学生紹介

### 平成22年度 公益信託岩井久雄記念 宮城奨学育英基金奨学生

今年度の公益信託岩井久雄記念宮城奨学育英基金奨学生について、本学より学部・大学院あわせて4名の学生を推薦しました。選考の結果2名の学生が奨学生として採用されました。今後の活躍を期待しています。

#### ■ 電子工学専攻 博士(前期)課程 1年



くまさか ますたか  
**熊坂 増高**

好きな言葉:  
成功の反対は失敗ではなく、あきらめることである。

#### ■ 建設システム工学科 3年



やまさき しゅえつ  
**山崎 秀悦**

好きな言葉:  
継続は力なり

### 平成22年度 郵政福祉教育振興基金 奨学生

今年度の郵政福祉教育振興基金奨学生が選考されました。選ばれた皆さんのがんばる活躍を期待しています。

#### ■ 環境情報工学科 4年



おおひなた のりたか  
**大日方 範昇**

好きな言葉:  
Tomorrow is another day.  
訳:明日は明日の風が吹く。

#### ■ クリエイティブデザイン学科 3年



おおはら まさとも  
**大原 将友**

好きな言葉:  
何とかなるよ!

# 広げよう、自分の可能性 あきらめない、決めつけない、努力を怠らない

大学卒業予定者の就職は依然厳しい状況が続きます。未内定の4年生は、「あきらめないこと」が、なりより大事です。可能性を求め、選択肢を広げ、努力を怠らない。自分の力を信じ、可能性が見つかったら、持てる力を最大限に出せるようにしましょう。3年生は勉強と並行して、準備開始。今回は大学の就職支援取組の一部を紹介します。掲載していない就職支援事業もあります。未内定の人はまずキャリアサポート課を訪ね、相談してください。それが第一歩です。

## 就職部から

### 就職活動には積極性が必要



建設システム工学科 准教授

昨年度の本学における就職率は、就職を取り巻く環境悪化の影響により90.3%に低下し、前年同期を2.6ポイント下回りました。今年度に入って就職環境はさらに悪化し、4月からの月別内定率の推移は昨年同期と比べて低迷傾向にあります。この傾向は、本学のみならず、就職情報サービス会社による全国的な調査でも同様な結果を示しています。

未内定の学生の皆さんには、卒業までの時間が限られていますので、積極的に行動しなければなりません。まずは、学科就職委員、研修指導教員あるいはキャリアサポート課を通して提供される就職情報をいつもチェックし、エントリーできる企業の把握に努めること、そして不明な点があったら、身近な教職員に遠慮せずになんでも相談するようにしてください。決して諦めないことが肝心です。

3年生の皆さんには、いよいよ本格的な就職活動期に入りますが、就職環境の厳しさは今後も続くことが予想されます。十分気を引き締めて臨んで下さい。昨年度からの内定率の低下の要因は、主として求人件数の激減ですが、企業と学生とのミスマッチにもあるようです。決して自分の先入観で企業や業界、職種を決めつけず、企業説明会などに参加して、実際に働いている説明者(社員)の方の話を聞き、自分の可能性をどんどん広げてみてください。その中から自分が本当に働きたいと思う企業を探してみることが大事です。

### 今後の主な就職支援行事について

時期	行事	対象学年
12月	学科就職ガイダンス (進路調査書記入説明、就職企業説明会案内)	3年生 各学科
	模擬面接	3年生
1月	7日(金)～14日(金) 進路調査書提出期日	3年生
2月	2日(水)・ 3日(木) 進路指導集会／就職企業説明会 就職企業懇談会	3年生
3月	初旬 公務員・民間就職試験 対策講座(6日間)	2～3年生

### 未内定者対象の模擬面接

一昨年度から世界的な規模で発生した景気悪化により、雇用環境が激変しています。それに対応するため学長の指揮の下、「就職戦略会議」を設置し、現状把握と共に、就職支援強化のため様々な施策を講じております。

その一環として、模擬面接を学外専門キャリアカウンセラーと、就職部長・次長、さらに大学事務局管理職の協力を得て初めて実施しました。

- 実施期間／平成22年7月13日(火)～28日(水)
- 会場／八木山・長町キャンパス(延べ39会場)
- 実施形式／個人面接(学生1名、面接者2名)約30分
- 面接者／学外専門キャリアカウンセラー、就職部長・次長、大学事務局管理職
- 参加学生数／172名



### 学内合同企業説明会を開催

4年生と既卒者を対象に合同企業説明会をこれまで10月に開催しておりましたが、今日の状況を踏まえ、8月に前倒しして実施しました。この説明会は、経産省中小企業庁の受託事業者である(株)学情の協力で、学内で開催しました。

説明会には、2011年採用継続中の企業59社が参加し、学生237名、研究生17名、大学院生1名の合計255名が、人事担当者から企業概要や採用情報などについて説明を受けました。参加した学生の中には、選考の機会を得て、「内定」に至ったケースもあり、学生と企業の貴重な出会いの場になりました。

- 日時／平成22年8月5日(木)12時45分～17時
- 会場／東北工業大学八木山キャンパス9号館

## インターンシップ



### インターンシップについて

実習先：通研電気工業株式会社



左京 大地  
知能エレクトロニクス学科 3年

今回のインターンシップで、制御用PLC・Windowsプログラム操作、IPネットワーク、ネットワーク機器の機能を体験実習してきました。実習には、授業で学んだことのないソフトを使ってのプログラム作成があり、戸惑う場面もありました。大学の授業だけではなくいろいろなことを勉強しなければならないと感じました。

今回の経験を通して、勉強だけではなく、コミュニケーション能力を身に付けることや、言葉遣いにも普段から気を付けて生活していくことが大切だと感じました。

企業が行なう業務のほんの一部でしたが、実際に体験させていただくことができ、とても良い経験ができました。この経験を今後の大学生活や、就職活動に活かしていきたいです。

### 前進

実習先：株式会社AZOT



佐竹 莉奈  
クリエイティブデザイン学科 3年

インターンシップをさせていただいたのは、Tシャツの製造、企画、デザイン、販売、卸売りをしている会社の小売り部門です。

実際に自分がデザインしたTシャツをシルクスクリーンでプリントし、お客様の手に届くまでを体験させていただきました。

1週間という短い期間でしたが、このインターンシップを通して技術的な側面はもちろん、コミュニケーション能力、人間性、自主性の大切さを実感しました。また、自分の興味の方向性を再確認するとともに、就職への意識、今後の創作活動への意欲が高まりました。今回の経験はこれから本格的に始まる就職活動への大きな前進につながるものになったと思います。

### スケジュール

時期	行事
5月	インターンシップ説明会
6月上旬	参加登録票提出
6月中旬～下旬	マッチング
7月上旬	参加意志確認
7月下旬	事前研修会
8月～9月中旬	インターンシップ実施
11月	事後報告会
1月下旬	単位認定申請
3月下旬	単位取得

詳しくはキャリアサポート課へお問い合わせください。

### 参加人数 (平成22年度)

工学部(3年生)	
知能エレクトロニクス学科	17名
情報通信工学科	15名
建築学科	10名
建設システム工学科	1名
環境情報工学科	8名
合計	51名
工学部(4年生)	
デザイン工学科	1名
大学院	
電子工学専攻	1名
ライフデザイン学部(3年生)	
クリエイティブデザイン学科	24名
安全安心生活デザイン学科	27名
経営コミュニケーション学科	21名
合計	72名

### リニューアルした 企業向け大学案内について

安全安心生活デザイン学科 准教授

企業向けに本学で作成している企業向け大学案内は、昨年に大幅な編集変更を行いました。したがって今年度は、昨年度版のマイナーチェンジとし、さらに読みやすくなりファインを目指しました。

また、ライフデザイン学部教員による求人企業開拓の活動に合わせるため、例年より2か月程早い時期に発行することとしました。

工大カラーが活きた新鮮な印象の表紙、中身満載で軽い冊子に仕上がったと自負しております。

皆様には、多大なご協力をいただきました。ありがとうございました。

小山 祐司

就職部次長

安全安心生活デザイン学科 准教授



堀江研究室では、共通の興味・関心を持つ人々のコミュニケーションを支援するためのツールのデザイン研究を行なっています。コミュニティ活動を伝えるためのWEBサイトのデザインでは、コミュニティメンバーへのヒアリングに加えて、実際の活動に参加して理解を深めています。モバイルアプリのデザインでは、ペーパープロトタイプ(紙等を使った試作品)やプロトタイプソフトウェアを使ったワークショップにより、新しい使い方や改善点の発見をしています。面白い経験、楽しい経験をユーザーに提供することが目標です。



研修の様子



企業とのワークショップ(仙台駅)



堀江研究室のメンバー

### 学生へのメッセージ



に向かうのはNGです。

今年の堀江研究室では2つの学外協同プロジェクトを進めています。1つめは東北大の研究者を中心とする「身体メディア研究会」のため、WEBサイトのデザインです。2つめは仙台の地域観光を支援するモバイルアプリのデザインを、ソフトウェア開発企業と進めています。どちらも学外の研究者やエンジニアとの協調、そして顧客や利用者との対話が必要です。そういう協調や対話のために、利用シーンを描いたり、プロトタイプを制作します。それらをきっかけにして顧客や利用者と対話しながら、デザイン提案を行なっています。デザイナーにとって最も大切な仕事は、人と接することです。

### 学生の声

\*クリエイティブデザイン学科の前身であるデザイン工学科の4年生が研究室に所属しています。

#### 今野 和彦

デザイン工学科 堀江研究室 4年

研修で制作したものは、学内だけでなく学外のイベントや研究会といった活動で検証を行ないます。実際にユーザーとなる方からヒアリングを行ない改善や新しいアイデアに活かすなど、非常に実践的な学びをしています。

他の大学と合宿を行なったり、企業の方と合同で研修を行なうなど、研修の中で多くの人と出会うことのできる研究室です。デザインのプロセスだけでなく、人との関わり方についても経験を積むことができます。

#### 松本 友也

デザイン工学科 堀江研究室 4年

私たちの研究室は、他の学年の学生との交流があります。一緒にワークショップを行なったり、私が3年生のときには、先輩にアドバイスをもらったりしていました。つながりを大切にし、日々楽しく学びを共有しています。

#### 鈴木 綾

デザイン工学科 堀江研究室 4年

企業と合同で研修を行なったり、研究室の仲間とグループで活動を行なうため、人との適切なコミュニケーションの取り方を学ぶことができます。そのため、デザインの学習のみではなく社交性を高めることができます。研究室です。

グループワークでの研究のため、メンバー間の結びつきが強く、雰囲気の良い研究室です。また、後輩との交流があるため、幅広い交流を持つことができます。そのため、刺激のある環境で研修を進めていくことができます。

# 大学院で学ぶ

大学院工学研究科は6つの専攻があり、各専攻には前期・後期課程が設置されています。大学院では学部で学んできた幅広い専門知識を踏まえて、更に高度な専門知識・技術を学び、創造的研究成果を上げ、技術者・研究者としてのステップアップに結び付けることができます。2012年4月には、ライフデザイン学研究科(仮称)の開設を予定しています。大学院への積極的な進学を期待します。

## 大学院の特徴

平成4年に設置された大学院は、これまでの修了者数が約500人にもなります。それぞれの修了者は大学院で高度な専門知識・技術を習得し、東北地方を中心に社会で活躍しています。

本学の大学院の特徴は、大学院学生数に比べ、指導する教員が多く、少人数指導が行なわれていることです。したがって、指導教員から研究・専門知識などの十分な指導を受けることができます。また、本学独自のRA(研究補助者)制度があり、全ての大学院生に教員の研究補助者として活躍してもらうことで、毎月2万円を支給しています。本学卒業生は入学金、設備負担金が免除されるほか、成績優秀者は学内推薦制度により、学科長推薦を受けた後に筆記試験が免除されます。

## 大学院修了生の声

### 会社の業務と大学院時代

キヤノンプレシジョン株式会社 総務部 施設環境課 勤務  
環境情報工学専攻 博士(前期)課程 葛西研究室 2010年修了

ぬまた たくろう  
沼田 拓郎



会社で担当するのは保全業務です。職場は生産現場が必要とするインフラを安定かつ低成本、さらには環境負荷の低減を図りながら供給します。私は職場の中で設備機器の日常点検を行なっています。心がけている点はキヤノンの思想の一つである3現主義(現場・現認・現物)です。

微妙な変化や状態は現場でなければ分からない上、自分で理解し他者に伝えなければ企業に必要な有効な組織的活動になりません。

このことは、大学院時代に学んだ疑問や結果の真実性を解決するため、様々な実験を行なった行動力と学会発表などで経験したプレゼンテーション能力が活かされています。

今は、仕事を覚えることで精一杯ですが、今後は、自分の力が会社の力になるように成長していきたいです。

### 電子工学専攻

電子工学はIT(情報技術)社会を支える基幹技術です。材料からデバイス、計測、制御、システムまでの非常に幅広い分野が含まれます。本専攻にはシステム、センシング、デバイスの3分野があります。博士前期課程では高度エンジニアの育成を、後期課程では研究教育者やプロのエンジニアの育成を目標に教育と研究を行なっています。

#### 博士前期・後期課程

- システム分野
- センシング分野
- デバイス分野

### 通信工学専攻

通信工学専攻では、高度情報通信社会を担う人材の育成を目指し、専門分野における研究者あるいは高度な専門知識を有する技術者の育成を教育目標としております。本専攻には「光通信工学」、「電磁波動工学」、「基礎情報工学」、「情報処理工学」の4分野があり、各分野では熱意あふれる教員のもと活発な教育研究が進められています。

#### 博士前期・後期課程

- 光通信工学分野
- 電磁波動工学分野
- 基礎情報工学分野
- 情報処理工学分野

### 建築学専攻

5つの研究分野からなり、大学院生は建築デザイン、建築史、計画、環境、建築生産、構造など幅広く研究活動を進めることができます。前期課程では修士論文のほかに修士設計を選べることが大きな特徴です。またプロフェッショナルコースが設けられ、必要科目を履修すれば1級建築士のための1年の実務経験が得られます。

#### 博士前期・後期課程

- 建築史・意匠分野
- 建築・都市計画分野
- 建築環境工学分野
- 建築生産工学分野
- 制振構造学分野

### 土木工学専攻

我々をとりまく都市、地域から国土に到る様々な空間環境を創造・改善・維持することを対象とする学問です。そのために下記に示す計画学、環境工学、地盤工学、応用力学、材料学、防災工学などに関する5分野から構成されています。これらの分野を担う優れた技術者および研究者の育成を目指しています。

#### 博士前期・後期課程

- 土木材料・構造工学分野
- 地盤工学分野
- 地域の利用と防災分野
- 土木計画学分野
- 地域の水循環分野

### デザイン工学専攻

生活をより豊かにする表現・伝達手法や道具・空間環境を、生産から保全手法も含めて調査・計画し、具体化できる人材育成を目指しています。そのために、これまで以上に各領域で得られた知見を活かしつつ統合できる力を高める必要があります。そうした社会の要請に応えるため、4つの研究分野で探究を行なっています。

#### 博士前期・後期課程

- 産業デザイン計画分野
- 環境造形計画分野
- 福祉デザイン計画分野
- 生活デザイン科学分野

### 環境情報工学専攻

本専攻の教育は、化学物質の環境を介した人への暴露およびリスク評価、環境モニタリング用バイオセンサー、環境材料、地域・環境学習支援、大気、水、生態などが絡み合う環境システム変動の数理的解析、レーザ技術を用いた環境リモートセンシング、身近な水域の水質改善、植生浄化法、人工湿地法による汚水の浄化法などの研究活動での経験と成果をもとに組み立てられています。

#### 博士前期・後期課程

- 地域環境保全分野
- 環境応用化学分野
- 環境マネジメント分野
- 環境システム動態学分野
- 光/レーザリモートセンシング分野
- 水質環境分野

## 大学院生の声

### 大学院での経験と成長

さとう だいすけ  
佐藤 大輔  
通信工学専攻 田村研究室  
環境通信工学部門 博士(前期)課程 2年



私は超音波振動の応用に関する研究室に所属し、ここで真空や高温槽など特殊な環境下でも使用できる超音波モーターの実現に向けて研究しています。先日は学会に参加し、自身の研究を発表しました。いろいろな大学や企業の方とお話しする機会もあり、たくさんの意見をいただき見聞を広めることができました。大学院では他大学や企業の方との交流や、後輩指導など人とかかわる機会が多くなります。そのため、単に学力だけではなく、人間性も求められます。皆さんも大学院で切磋琢磨し、人として大きく成長してみませんか。

新技術創造研究センターは、地域社会への貢献を目的として一番町ロビーにおける「Tohtechサロン」や「地域企業紹介展」を開催しています。また、「おおさき産業フェア2010」や「産学官連携フェア2010みやぎ」に参加し、本学の概要や研究シーズを紹介するなど、産学官連携に関わる活動を積極的に展開しています。

## 「キラリと光る地域企業紹介展」および「Tohtechサロン」の開催報告



「産学官連携コーディネート機能強化事業」の一環として、今年7月に一番町ロビーで「キラリと光る地域企業紹介展」と地域企業経営者などを講師に「Tohtechサロン」を2回開催しました。

地域企業は、地域経済において重要な役割を担っておりますが、今回は高度技術や新商品開発、さらには販路開拓や市場創出に向けて積極的に取り組んでいる17社をパネルなどで紹介します。また併せて、展示会期中の7月26日に経営者2名から、そして、10月4日には経営者と技術顧問の方から事業内容や技術開発、今後の展望などをテーマにお話していただきました。

この事業は、本学との共同研究や連携事業のきっかけとして、さらには一般市民や学生など若年層の方にもご覧いただき、地域企業に対する関心がより高まることを期待し開催しております。今後も同様の展示会やセミナーを開催しますので、是非ご参加下さい。



## 「おおさき産業フェア2010」に出展

10月15(金)、16日(土)に大崎市古川総合体育館で開催された「おおさき産業フェア2010」に参加し、本学の概要とライフデザイン学部経営コミュニケーション学科渡部順一教授と佐藤飛鳥講師の研究シーズを紹介しました。

大崎市で初めてとなるこの産業フェアは、大崎市とNPO法人未来産業創造おおさきが主催したもので、農業・商業・工業などの産業の枠組みを超えた連携と新しい産業や事業を創出し、「おおさき」の未来を豊かにすることを目的に開催されたものです。

出展者は企業、大学などの41件、来場者は2日間で約3500名と賑わいました。工大ブースには地元住民の方や工大OBの方にも訪れていただきました。



## 「産学官連携フェア2010みやぎ 研究成果発表・交流集い」に出展

10月18日(月)に仙台国際センターで開催された「産学官連携フェア2010みやぎ」は宮城県内外の機関が一同に会し、研究・技術開発成果や産学官連携事業の取り組みなどについて紹介するものです。今年度は東北地方の主要な大学・高専から51機関175テーマの出展があり、本学も下記8件の展示発表をしました。



### ■情報通信

#### 「組込みマイコンネットワークボードの開発」

工学部 情報通信工学科 准教授 松田 勝敬

#### 「ネットワーククロギンシステムの高信頼化」

工学部 情報通信工学科 講師 角田 裕

### ■ものづくり

#### 「引張にも粘り強いセメント系複合材料の開発」

工学部 建築学科 教授 三橋 博三

#### 「超音波モータ・振動デバイスに関する研究」

工学部 情報通信工学科 准教授 田村 英樹

### ■環境エネルギー

#### 「室内環境の省エネルギーフィードバック制御」

ライフデザイン学部 経営コミュニケーション学科 教授 渡部 順一  
工学部 建築学科 教授 渡邊 浩文

#### 「高効率風力・太陽光ハイブリットシステム」

新技術創造研究センター 産学官連携研究推進部門長 野澤 寿一

### ■産学連携・地域連携

#### 「デザインによる地域振興—東通村の椅子—」

ライフデザイン学部 クリエイティブデザイン学科 准教授 梅田 弘樹

#### 「八木山動物公園ガイド“楽芸員”的養成」

ライフデザイン学部 経営コミュニケーション学科 講師 佐藤 飛鳥

## 先生のホンネ⑦ 教室では語れない学生へ向けた先生のホンネを聞きました。

“なにか”は外からやってくる



あらい のぶゆき  
**新井 信幸**  
建築学科 講師

将来なにをすべきか。学生時代はそんなことでよく物思いにふけったものです。しかし、妄想を抱くばかりで、いつも現実から離れたところを彷徨っていました。それでも、研究室の活動に打ち込んだり、バイトの上司に飲みに連れてってもらったり、女の子にフラれたり、外からいろいろ刺激をもらうことで、自分がどんな人間で将来なにをすべきなのか、その答えが少しずつ形づくられていきました。言えることは、“なにか”は自分の内ではなく、外からやってくるものだということです。それでも、今も月に一度は物思いにふけっています。



物思いにふけるのに適したカフェ



学生時代に関わった団地再生ワークショップ

日本を飛び出してみよう！



さとう なつこ  
**佐藤 夏子**  
経営コミュニケーション学科 准教授

最近の若者は海外に行くことに興味がないという話を随所で聞きます。行かなくてもネットやテレビでいろいろ見聞きして、知っているような気になるという声も聞きます。でも、外国を訪れると、日本人であることや、日本文化や習慣などについて考えさせられたり、今まで常識だと思っていたことが「日本の常識」に過ぎないと気付かされることがあります。私はこれまでに英語圏を中心に約20カ国を留学、旅行、学会出張等で訪れているが、毎回新しい発見と出会いの連続です。若くて時間があるうちに是非外国に行ってみることをお勧めします。



クロアチアの学会で恩師と再会



昨年マレーシアの学会で知り合った人達と

アイデアの源を求めて



しまだ つとむ  
**島田 穂**  
共通教育センター理数教育部 教授

世界で最も不思議なことに、  
 $1 + \frac{1}{2^2} + \frac{1}{3^2} + \frac{1}{4^2} + \frac{1}{5^2} + \frac{1}{6^2} + \dots$   
と限りなく続けていくと合計がぎっかり  $\frac{\pi^2}{6}$  になるという事実があります。これは1735年にオイラーが発見しました。無限個の数を足すことは現代のコンピュータでも不可能です。それを一人の数学者が証明しました。人間の知恵の力です。さらにこの証明は、後の数学者達の多くのアイデアのきっかけになりました。現代の科学技術はこうした人間の知恵・アイデアに支えられています。私もそれを求めて日々数学に向かっています。昔の数学者もそうでしたが、散歩の時に見つかることもしばしばです。



オイラー(1707~1783)



天空に真理をつかもうとしています



### 「海外語学研修」に参加して ～オーストラリアクイーンズランド州ケアンズ～

かめい  
**亀井 あかね**  
経営コミュニケーション学科 講師

文化の違いや語学力の不安から、研修開始直後は緊張しきった表情を見ていた学生たちは、ホームステイ先のホストファミリー

や、語学学校の教員や学友との交流を深める中で、目覚ましい成長を見せてくれました。

すずき ともえ  
**鈴木 朋恵**  
経営コミュニケーション学科 3年

今年2月末ケアンズに2週間滞在し、ジェームズ・クック大学付属の語学学校に通いながら異文化に触れてきました。

まず、空港に着いたときから感じる空気が日本とまったく違います。街を歩いている人や景色、気候も違います。スーパーには見たことのない野菜やフルーツが並んでいます。英語だけでなく、そんな光景を見るだけで勉強になります。

学校には様々な国からの留学生がいるので、日本では経験できないグローバルな会話を楽しめます。その時、英語は大事なコミュニケーションツールだと実感しました。週末や放課後にはショッピングや海水浴を楽しんだり、世界遺産を巡りました。ホームステイ先はプール付きだったので束の間のセレブ生活を味わいました。

すべての経験が良い思い出です。英語での表現がうまくできずに困ったこともありましたが、面と向かって話すとジェスチャーが使えるので意外と理解してもらえます。ケアンズでの経験を通して、昔より自分の考えを言葉で表すことが上手になったと思います。視野が広がり、日本での生活ももっと楽しめるようになりました。



### 2010泰日工業大学 サマープログラム参加報告

わたなべ しゅうや  
**渡部 修也**  
環境情報工学専攻 博士(前期)課程 1年

8月28日から12日間、泰日工業大学(TNI)主催のサマープログラムに参加してきました。

滞在中は、日系企業の見学、タイ語と文化の学習を中心に行なってきました。

タイは同じ仏教国ではありますが、異なる点はいくつもあります。

お寺の構造、仏像の形などは、京都にあるものと比べて、色彩が鮮やかで独特的な雰囲気を感じさせます。

TNIの学生数人と、チャオプラヤ川河口付近でマンガローブの植林をしてきました。河口の土壌は非常に柔らかく、足が70cm以上も埋まってしまうほどでした。マンガローブの植林プロジェクトに関しては学部生のころから何度か経験してきましたが、海岸沿いや湿地帯などは、地面がある程度固いところでの植林でしたので、今までとは全く異なるものでした。

日系企業訪問では、タイワコールと、タイトヨタの2社を訪問しました。ワコール副社長のお話は非常に説得力があり、世界の最前線で働く社会人の考え方を聞ける良い機会でした。

今回のサマースクールの参加者は、一人ひとりの個性が非常に面白く、短い期間であったにもかかわらず、良い信頼関係を築けました。それは日本人、タイ人の高いコミュニケーション力と、社交性の高さのおかげであると考えられます。

非常に良い機会を与えてくださった、皆様にお礼申し上げます。



タイワコールで現地幹部の説明を聞く

## トピックス



### 七夕まつりへの参加

荒井 俊也（クリエイティブデザイン学科 教授）

仙台七夕まつりに本学の学生（2年有志）が製作した七夕飾りを提げるようになって今年で6年目です。一番町ロビーがサンモール商店街に隣接する関係で参加するようになりました。これまで、幾度か賞もいただいております（今年は銅賞）。毎年、試行錯誤の製作ですが、先輩からアドバイスをもらい、だいぶ要領よく作り飾るようになりました。しかし、七夕製作の時期は毎年前期試験と重なります。レポートの提出日、試験勉強、アルバイトなど、時間調整のなかで一生懸命製作する姿がみられました。



### 真剣な表情と笑顔に満ちた、ピア・サポーター宿泊研修

#### ウェルネスセンター カウンセリングルーム

ピア・サポーター宿泊研修が9月10日、11日に行なわれ、23人が参加し2日間で計7時間の研修に取り組みました。コミュニケーションを体験的に学ぶグループワークや、心理テストを用いた悩みや自分との向き合い方を学ぶ基礎講座に、参加者は真剣な表情でした。また、学生がチームを組んでプレゼンする「ピア・スタディ」では、ペットや笑いと心理学の関係や、視覚聴覚と感情の関係などについての発表が行なわれました。

研修を通して、真剣さと同時に心から楽しむ参加者の表情が見られ、実り多い研修となりました。

### 「一番町ロビー」ギャラリー企画300回記念 岩崎理事長の「日本国際賞」特別展示



知能エレクトロニクス学科 本多直樹教授が記念の講話

「一番町ロビー」1階ギャラリーの企画展示が、オープン7年で300回を迎えました。これを記念して、10月15日から12日間、岩崎俊一理事長の日本国際賞受賞記念の特別展示会を開催しました。

「一番町ロビー」は、地域にひらかれた大学を目指し、2003（平成15）年10月にサテライトキャンパスとしてオープン。1階ギャラリーと4階ホールで、学内外の研究や制作作品の発表や展示、市民向け講座やセミナーなど地域をサポートする活動やイベントを開き、これまで約8万人が来館しました。

展示会では、天皇皇后両陛下がご臨席、厳かに行われた日本国際賞授賞式、記念講演会などをパネルや動画で紹介したほか、記念の盾を理事長にお借りして展示し、日本版ノーベル賞と称される日本国際賞への理解を深める内容にしました。

また、授賞対象のハードディスクの「垂直磁気記録方式」による高密度磁気記録技術や、その技術がどのように社会生活の中で使われているかも分かりやすく解説。初日には知能エレクトロニクス学科の本多直樹教授が磁気記録技術やその歩みについて一般の人にもわかるよう講話をしました。

### 岩崎理事長、秋田県の産業技術特別功労者に



岩崎俊一理事長が秋田県の産業技術発展に長年貢献した功績で、秋田県産業技術特別功労者の表彰を受けました。

岩崎理事長は、旧制秋田中（現秋田高校）で十代後半を過ごし、その縁で秋田県高度技術研究所開設に尽力、1992年から名誉所長として秋田県の技術者育成と技術の向上に力を注いきました。

賞は産業技術分野での貢献と功績が世界的に評価受ける人物の表彰制度として秋田県が8月に創設、岩崎理事長が第一号の受賞です。

佐竹敬久知事から表彰状と記念品を贈られ、岩崎理事長は「産業技術の研究を通じ、誇りを持って働く仕事と職場の創出を実現できた」と感謝の言葉を述べました。

この後、母校秋田高校で講演、「勇気を持って一步を踏み出し、そしてやり通しなさい」と後輩を激励しました。

# PROFILE

建設システム工学科  
今西 肇 教授

建設システム工学科

伊藤 孝男 教授



か 紹介



## マネジメントできる人材育成を

今西肇先生は、1976年大阪工業大学大学院修士課程修了後、主に関西・九州の民間企業の技術者として活躍されとともに、公的研究・教育機関において研究員、講師を歴任され、1999年に九州大学より博士(工学)の学位を取得しています。最近まで国外企業のTeam Directorとして活躍され語学も堪能であり、また、専門分野の資格も技術士(建設部門)、APEC Engineer(Civil)、土木学会フェロー、特別上級技術者(地盤・基礎)など取得されております。豊富な実務経験をお持ちの先生は、来年4月新設される「都市マネジメント学科」の教育・研究でのご活躍が期待されます。

## トピックス



### 広瀬川1万人プロジェクトに 今年も参加

江成 敬次郎(環境情報工学科 教授)

9月25日(土)広瀬川1万人プロジェクト(第11回流域一斉清掃)が開催され、環境情報工学科1年生がこの活動に取組みました。このプロジェクトは、100万都市仙台の1%・1万人をキーワードとして、市民・企業・行政などで実行委員会をつくり、「広瀬川の清流を守る条例」にちなみ、毎年9月の最終土曜日に流域10数ヶ所で一斉清掃を実施しているものです。環境情報工学科として実行委員会に参加し、1年生と2年生有志が昨年に続いて太白大橋を担当しました。

台風の接近で天気が心配されましたが、幸い雨にはならず無事終了することができました。これまでの清掃活動の成果によって昨年より収集したゴミ量は少なかつたようですが、それでもタイヤや金庫などあるはずのないものも集められました。

全体の参加者は約1,600人(本学科関係約100人)、収集したごみ量は800袋(本学科会場約30袋)でした。



### エスカレーターの 運用開始

東門からのアクセス通路整備について大学施設整備構想検討委員会において検討した結果、4、5号館間の階段部分にエスカレーターを設置することになりました。工事費と施工時の安全性等を基準に施工業者の選定を行ない、6月中旬から工事を開始しました。このエスカレーターは、途中に踊り場をはさんだ、登り2本、下り2本からなり、人感センサーによる運転で環境に配慮したものとなっています。

既存階段の解体工事時に想定外のコンクリート片、配管(以前使用していたもの)等が出たことにより、工期が延長されましたが、無事に完成することができました。学内の皆様のご協力に感謝申し上げます。

(会計課)

## 新任教員紹介 (2010年10月1日付)

■ 工学部 建設システム工学科 教授



いなむら はじめ  
稻村 肇

都市を計画し町村を住み易くする研究をしています。公務員をめざす学生を待っています。



### 実験バス「青山くん」走る

長町キャンパスに隣接している青山地区(青山・弥生町・長嶺など)では、長い間住民の方から公共路線バスの運行が切望されてきました。仙台市では将来の交通体系を視野に、これらの要望が実現可能か実証実験を行なうことになりました。10月1日から29日まで、八木山キャンパスから長町キャンパスを通りJR長町駅東口までを実験バス(愛称「青山くん」)が運行しました。「青山くん」は有料の40人乗りの中型バスです。両キャンパス間がコースの一部であることから、本学ではシャトルバスを往復12便運休するなど、この実証実験に協力しました。(学生課)